

「月惑星探査の来る10年」検討：第二段階から第三段階への移行 Planetary Exploration in a Coming Decade Activity: From 2nd to 3rd Stage

並木 則行^{1*}, 出村 裕英², 小林 直樹³, 大槻 圭史⁴

NAMIKI, Noriyuki^{1*}, DEMURA, Hirohide², KOBAYASHI, Naoki³, OHTSUKI, Keiji⁴

¹ 千葉工業大学 惑星探査研究センター, ² 公立大学法人会津大学, ³ 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部, ⁴ 神戸大学大学院理学研究科

¹PERC/Chitech, ²The University of Aizu, ³ISAS/JAXA, ⁴Graduate School of Science, Kobe University

日本惑星科学会 将来惑星探査検討グループでは、日本の惑星探査の長期的な展望を検討し、その検討結果をまとめた報告書の作成を目指している。この検討活動は惑星科学のコミュニティが、惑星科学会会員、非会員を問わず、自らの責任において将来像を描いていく作業である。著者らは事務局としてこの検討作業を支援している。

近年でははやぶさ、かぐやの探査の成功もあって宇宙開発を政策的に推し進めようという機運があり、惑星探査の機会が増えつつある。しかしながら、我が国の惑星探査科学の長期的な成功・発展のためには、科学的視点に立った探査計画の立案のみならず、人材育成や関連基礎研究の推進を含め、惑星探査科学を強力に推進する体制の確立を、惑星科学コミュニティとして益々強化して行くことが不可欠であり急務である。今、個々の研究者はもちろん、コミュニティ全体が強い意志で自律的かつ主体的に探査を推進していくことが求められている。

長期ビジョンの策定を開始するにあたり、我々は以下の5点を検討方針の要点と考えた (A) 惑星科学コミュニティの力量を自覚し、2017年から2027年までの惑星探査将来計画を自主的に検討することを目的とする (B) 惑星科学の第一級の科学(“トップサイエンス”)を抽出するとともに、観測機器提案・ミッション機器提案を募って、コミュニティが支えるミッションを創成する (C) 作業は三段階に分けて行う。第一段階ではトップサイエンスを抽出し、第二段階ではミッション提案と観測器提案を科学的重要性に基づいて統合・改良し、第三段階ではミッション提案と観測器提案の実現性評価を行う (D) 各段階で学会・シンポジウム等での中間報告を繰り返して、広く意見聴取を図る (E) 他の宇宙科学関連学会・コミュニティとの連携を図る。これらを達成するために、検討作業全体には2.5~3年程度がかかると想定している。

2011年連合大会以降、検討は第二段階にはいり、ミッション提案と機器開発提案を受け付けた。これらの提案は第二段階委員によりレビューされ、再検討が行われる。第二段階は本セッションでの議論をもとに日本惑星科学会誌 遊・星・人への報告記事投稿をもって終了する。一方第三段階は、本セッションからスタートとする。

キーワード: 惑星探査

Keywords: Planetary Exploration